

卓上四季

企業のPR誌なのに宣伝臭がほとんどなく、地域文化の発掘・向上に真剣に取り組んでいる雑誌の企画展が、

北海道文学館などの主催で札幌市資料館で開かれている(月曜休館、二十二日まで)▼取り上げられたのは札幌の共同印刷発行の『月刊ニュースきょうとつ』と、りんゆう観光発行の隔月刊『カムイミソタラ』の二誌。『きょうとつ』はB5判で八頁、『カムイ』は変形B5判で十六頁に過ぎないから、雑誌というよりは

パンフレットに近い▼そんな小冊子にもかかわらず、読者に根強い人気があるのは、地域文化にこだわり続ける編集姿勢への共感からだろう。創刊丸九年の『きょうとつ』が一貫して追い続けてきたのは、本道の印刷・出版を中心とした文化情報の発信だった▼四頁の特集を柱に、道内出版物の紹介や年間通し企画の欄を設け、表紙を木版画で飾るスタイルは創刊以来変えていない。創刊六年の『カムイ』も、かなり掘り下げて取材した特集に、随想欄を加えた組み合わせをずっと守り続け

ている▼両誌とも、特集面のテーマは人物、グループ、文学・美術活動、文化財、自然など多岐にわたる。共通しているのは、対象を絞り込むことによって中身を濃くし、小冊子らしからぬ情報を伝えていることだろう。個性的で異色の雑誌といわれるゆえんだ▼情報ははらんしているといわれるが、本当に欲しい情報は少ない。とりわけ地域文化の情報は手薄だ。両誌の地道な活動は、企業が地域の文化振興や情報発信に参加し、大きく貢献できる道が開けていることを示している。